

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O193600111		
法人名	特定非営利活動法人ほのぼの		
事業所名	グループホーム ほのぼの ユニット1		
所在地	〒059-0915 白老郡白老町川沿1丁目553-9		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所も開設し4年が過ぎ、家族との連携も深まっている。家族会等ではそれぞれの家族さんが役割分担を行い家族間の親睦も深まっている。また協力医療機関との連携も、回診や往診だけではなく、行事にも参加していただき、院長自らの寸劇が好評です。ボランティアさんによる菜園も充実してきて今年も楽しみなところです。白老は温泉もあり近くの足湯に出掛けるのも入居者さんの楽しみです その他山菜を採りにも出掛けるなど一年間がアツという間に過ぎてしまいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600111&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年2月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、平屋造りで吹き抜け天井が高く、広々とした共用空間となっている。運営推進会議を通じて地域交流の基盤を構築した後に、日常的な外出機会により地域商店との馴染みの関係を形成したり、事業所敷地における菜園及び東屋等の設備整備や管理運営に地域のボランティアを導入し、日常的に様々な場面において地域との交流を円滑に行っている。管理者及び職員は、地域と密接な関係で運営を行うことに努めている。また、かかりつけ医との相互理解を深め必要に応じて往診を受けられることや、医療資格者を職員として配置し、健康管理を中心として利用者の心身状態に合わせた支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年同様、会社全体の理念とグループホーム理念を目の届く所に掲示している	地域密着の理念を掲げ、事業所内に掲示している。理念の実践や達成に向けて職員会議などで意見交換の場を設けているほか、職員の中途採用者には採用者研修として理念の説明を行い職員へ周知し、共有を図り、日常的に地域交流に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し町内会行事(おみこし盆踊り)等に参加し地域との触れ合いを大切にしている	町内会に加入し、盆踊り、神社の例大祭等の町内会が主催する行事を中心に交流している。地域住民からは菜園づくりや演芸慰問、事業所敷地内の設備管理において積極的なボランティア活動の申し出があり、受け入れを随時行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政が主催している「認知症を支える家族の集い」などに参加し、自分たちの持っている知識や経験を伝え、認知症を理解する事で少しでも家族の負担軽減になって頂けたらとの思いで活動しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回サービス状況を報告し意見・要望を受けサービス向上に取り組んでいる	運営推進会議は定期的開催し、地域住人代表、利用者、利用者家族、地域包括支援センター職員等の幅広い分野による委員構成となっている。会議では、防災対策や行事の開催について積極的な意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が中心になり家族の意見や相談を聞き出来る限り本人や家族の要望を取り入れている	町とは、介護給付に係る事項や運営推進会議の報告などを通じて日常的に連携を図り、事業所の運営に係る意見及び情報交換に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人一人の生き方や言動を制限する事なくケアを行っている。やむをえず制限しなければならない場合は、全職員で話し合いケアの方法を考えている。	事業所内において、身体拘束の事例は現在も過去にもない。「身体拘束廃止委員会」を事業所内に設置し、2ヶ月に一回程度委員会を開催し、身体拘束廃止に向けた取り組みを確認している。また、身体拘束廃止に向けた外部研修が行われている場合には職員に参加を勧め、復命書及び職員会議で研修内容を報告して、全職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、学んだ事を職員会議で発表し勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の協力の下、必要性を検討しているケースがあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書を基に重要事項を説明し同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で一人一人の思いや希望を聞く機会を多く持ち出来るだけ希望を叶える様にしている。	意見箱を設置したり、面会時や電話連絡で近況を報告する際など、主に利用者家族から意見を聞く体制を整備している。家族との連絡内容を記した「連絡ノート」を作成し、職員全体に周知できるように工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議時、全職員の意見、提案を聞き運営に反映している。	職員会議を主体として、職員と管理者及び代表者が意見を交換する機会を設けている。随時、管理者は職員と個別の面接を行い、意見や提案を聞き取る機会を確保しているほか、日頃から話しやすい関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやる気のおこるような環境を作り外部の研修や資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修に出来るだけ多くの職員が参加出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員と交流を図りサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた際に出来るだけ本人と話し気持ちを理解する様努めている、もしくは家族からも話しを聞き本人意見を把握する様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の不安なことや困った事の話し合いをしどのように対応していくかを一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族両者の話しを聞いた上で必要と思われるサービスの提供から始めている。入居後に再度サービスの検討を行いプランの変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事に着目し一緒に洗濯物の片づけ、掃除等を行い生活歴の中で馴染んできた事を役割とし得意な事を活かしながら共に暮らし寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便り、面会時、電話等で日々の様子を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の方が気軽に来訪して頂けるように努めている。来客時にはお茶など出しゆっくりとくつろげる様心掛けている。ご本人からは楽しかった事など良く聞いている。	近隣住民とのボランティア活動による交流や、地域の商店及びスーパーマーケットの利用、行きつけであった理・美容院の利用を、事業所利用開始後も継続して支援している。家族や利用者の友人の来訪の際は、くつろげる雰囲気づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者一人一人の個性を把握し、利用者同士の関 わり合い、相性等を考慮したり居場所を確保してい る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	普段気軽に来訪出来る環境にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討してい る	日々の生活の中での様子、会話の中から本人の思 いや希望している事の把握に努めている。困難な方 には言動から思いを読み取り職員間で検討し利用 者本位のケアができるよう努めている	利用者個人の尊厳や主張を主体としたアセスメント を実施している。利用開始以前の介護保険事業者 や医療機関から情報提供を受け、利用者や家族に 生活歴を確認している。職員は担当制となっており、 事業所内での生活や介護に関しての意見や要望を 詳細に把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所後、家族から本人の生活歴を頂き参考にした り、本人との会話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	一人一人の生活習慣や精神状況を把握するよう に努め、その日の健康状態、心身状態に合わせて無 理のない生活をして頂ける様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介 護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開き、ケア会議にて 報告している。又ケア会議では職員意見を聞きまと めサービス向上に努めている。	利用者個人のアセスメントは、計画作成担当者と介 護担当者で情報交換や確認を行っている。ケアカン ファレンスを開催し、職員間で介護に関する意向や 方向性を介護計画に沿って統一し、ケアサービスを 提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に個別の一日の様子を記入し、業務日誌 にて申し送りをして情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに 対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支 援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能事業所ではない為実施されていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力量に応じて町内会の行事へ参加したり、地域に少しでも出る機会を見つけ協力を得ている。月に一度、演芸ボランティアの来訪あり交流を深めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医に状態の変化を報告しながら支援をしている。受診内容は「医療ノート」に記入し、看護師・職員が共有している	事業所では、協力医療機関と連携を図り、利用者の健康管理を行っている。利用開始以前からのかかりつけ医の継続した診療も、利用者や家族の希望により行っている。検査結果の報告や投薬内容が変更になった時は、医療機関と家族双方の連携を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に相談しながら日常の健康管理に努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を作成し、安心して入院が出来る様になっている。又出来る限り病院を訪れ面会したり、退院後のケアなどの話しをしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化した場合における対応に関する方針を作成し家族の同意及び協力をお願いしている。	事業所では利用開始の際に、重度化対応について説明を行い、利用者及び家族から同意を書面で得ている。病状により主治医も交えて段階的に説明を行っている。現時点で終末期の対応を行った事例はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講座に参加したり、救急マニュアルも作成しており理解は得ている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下利用者と共に防災非難訓練を実施、設備等の使用方法を身につけ災害時に迅速適切な行動が取れるよう取り組んでいる。	事業所では防災計画に沿って、定期的に防災訓練を実施している。防災訓練は夜勤帯で実施される夜間訓練も随時行っており、防災に関して積極的に取り組んでいる。地震対応マニュアルや緊急時対応マニュアルを策定、職員に周知し、各種災害対策を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせて混乱や被害妄想などが見られた時には傾聴する姿勢で対応し、プライバシーを侵害しない様な関わりをしている。記録等は所定の場所で保管している。	利用者個人の尊厳を守るために、職員採用時のオリエンテーションや教育期間中に、接遇や利用者個人の尊厳を守る事を主題とした研修を設定している。日頃の会話や声かけについては、職員相互で意見を出し合い、サービスの質の向上に努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の理解力に配慮しながら自己決定を引き出すようにしている。意志表示の困難な方に対しては、行動や表情から読み取ったり、ジェスチャーを使うなどしている、			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず個々のペースで過ごして頂いている。希望が叶わない、出来ない事は本人に理由を解りやすく述べ説明している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度を一人で出来ない時には支援している。訪問美容を利用されてるが家族と希望の店に行かれてる方もいる。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食べ方があるので決して急かさず安心して食べれるよう対応している。出来る事を分担し、盛り付けや食器洗いなどを一緒に出来る様支援している。	事業所では、利用者が可能な限り食材の調達のための買い物に参加できるように支援を行っているほか、調理や後片付けについて可能な限り利用者も参加できるように支援している。献立は職員と利用者で意見を出し合い作成し、食事形態を利用者の咀嚼や嚥下能力に合わせて対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食チェックし記録に落としている。記録を確認する事で一人一人不足にならない様対応している。水分摂取が困難な方には、代替品を用意するなどの対応をしている。バランスを考え献立を作成している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の方に応じて職員が見守り、一部介助している。義歯のある方は就寝前に洗浄剤に浸けて殺菌消毒している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあった排泄のパターンをチェックし把握したうえで言葉掛けや誘導の援助を行うと共に下肢筋力の低下を予防しトイレでの排泄が続けられるよう自立に向けた	介護計画に沿って利用者の排泄援助を行っており、利用者のアセスメントに基づいて、必要な排泄誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1回は体操するなど体を動かす事に気を付けている。排便の確認の表を作成し一人一人の状態に合わせて、かかり付けの医師に相談し下剤を服用している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めてるが本人のタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。拒否の強い方に関しては、声掛けや対応、タイミングを見てから個人個人に合わせた支援を行っている。	入浴の予定をたてて、週2回程度の入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者には時間をおいて再度誘導を行ったり、職員を変更するなど、保清確保に向けた工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせ、昼寝等は自由にして頂いている。夜間眠れない時には飲み物を提供したり、寄り添って会話をするなど気持ちが落ち着くような支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録、処方箋をファイルし処方の変更があった場合は常にスタッフが内容を把握できるよう申し送りが出来ている。病状の変化時は医療機関との連携がとれている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、能力が活かせるよう家事や活動の場で役割を持って頂き感謝を伝える事で張り合いを持ち生活できるよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など希望がある時、職員体制を確認し、添えるように支援している。行事やレクなどで外に出る機会を設けている。	菜園や東屋など、保守管理している設備を地域のボランティアが整備しており、日常的に利用が可能である。また、地域商店へ食材を調達するために出かけるなど、日常的に外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらでお金を預かっているが、ご自分でお金を所持している方もいて出来るだけ買い物に行った際に使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、もしくは本人の希望により各居室の電話器を設置できるようにしている。電話器を設置している入居者はご家族と連絡をとられている。手紙のやり取りは本人の希望があればできるようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物、入居者様の作品展示、外出時やイベント等の写真を展示し穏やかに生活出来るように支援している。又、季節に合わせたテーブルクロスを変えるように工夫している。	共用スペースに利用者が作成したカレンダーや各種作品を展示している。ユニット毎にウサギを飼育し、利用者の生活に刺激を与えている。自然採光に工夫がみられ、ゆったりとした空間で利用者は思い思いの時間を過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には一人用の椅子、長椅子をおいてありいつでも自由にくつろげるスペースをつくっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置き、その人に合った部屋造りに工夫している。	居室には利用者が馴染みの品々を持ち込んでい る。必要に応じて環境を整備しながら、居心地のよ い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入り口のスロープ、共同スペース、トイレ、浴室等全てに手すりがついている。車椅子対応のトイレもある。いつでも休める様、ソファーなど所々に置くなど配慮している。		